

## 調査研究報告書の活用に関するアンケート結果報告

当調査会は、毎年度、複数の調査研究報告書を作成し、多摩・島しょ地域市町村等に配布するとともに、ホームページ上 (<https://www.tama-100.or.jp>) でも広く公開しています。

各自治体の現場において、どのように報告書をご活用いただいているのか把握するため、4月から5月にかけて多摩・島しょ地域の39市町村を対象としたアンケートを実施しました。

### <多くの市町村にご活用いただいています>

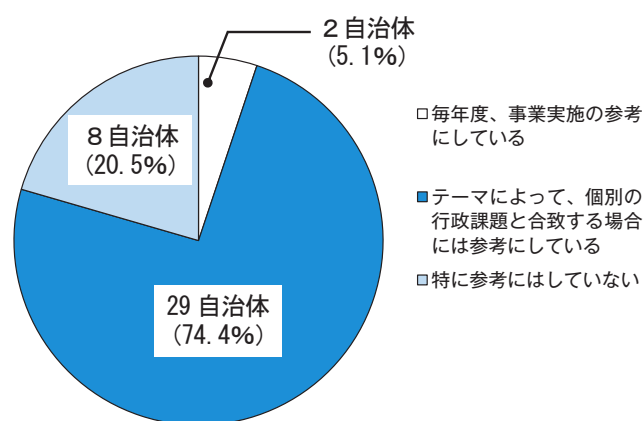
アンケートの結果、31自治体（合計79.5%）から「毎年度、事業の参考にしている」「調査研究のテーマが市町村の行政課題に合致する場合には参考にしている」とご回答をいただきました。（図参照）

また、2020年度の市町村事業の実施に当たっては、当調査会が過年度取りまとめた『ペット問題の解決がもたらす住民の生活環境向上に関する調査研究報告書』を参考に課題解決に取り組んだという回答をはじめ、他の調査研究結果も事業実施に当たっての参考として活用しているとの回答をいただいています。

各調査研究では、市町村が事業に取り組まれる際にご参考にしていただけるよう、多摩・島しょ地域の自治体にアンケートを行い、地域の実態について明らかにするとともに、取組のポイントとなる点を先進自治体や有識者から伺い、取組の方向性をお示しするなど、多くの情報を掲載しています。

調査研究内容は、過年度のものも含めて当調査会ホームページに掲載しています。是非、ご参照いただき、各市町村の取組にご活用いただきたいと思います。当調査会といたしましても、引き続き調査研究内容の充実に努めてまいります。

(図) 調査研究結果の活用状況（単一回答、n=39）



### 編集後記

新型コロナウイルス感染症の流行により、社会のあり方や私達の生活は大きく変化しました。テレワークやリモート会議等が急速に広がるなど、働き方の多様化も大きく進みました。このような中で、様々な分野でデジタル化が加速し、行政においてもデジタル化の一層の推進が求められています。今年度の当調査会の調査研究テーマには、「DX」、「ブロックチェーン技術」、「職員の情報分野の専門性」などがあり、自治体のデジタル化に向けて役立てていただけるものと思います。

一方で、コロナ禍の前には当たり前できていた、人が直接会って話したり、会食や旅行などへ出かけたりすることの大切さを実感したようにも思います。デジタル化が進み、社会や仕事のあり方が変化しても、対面した相手の表情や様子から感じられるもの、実際に現地へ行ってみなければわからないことも多いように感じます。ポストコロナといわれる時代にあっても、こうしたものも大切にしていきたいと思います。(Y.K)

発行 公益財団法人 東京市町村自治調査会  
〒183-0052 東京都府中市新町2-77-1 東京自治会館 4階  
TEL : 042-382-0068  
URL : <https://www.tama-100.or.jp>  
責任者 小暮 実

本誌のバックナンバー等をご覧いただけます



再生紙を使用しています